

# 俳句の部

## 最優秀賞

湯けむりや春満月を連れ歩く

兵庫県明石市 小田 慶喜

いよいよ春。心地よい風と満月を友として湯けむりの中をそぞろ歩く。時々見上げる満月にはこやかに、湯けむりはどこまでもあたたかく心地よい。その滲んでくる嬉しさを「連れ歩く」と表わす。作者が主で満月が従者。笑顔が自然とこぼれる春の宵はなんと気持ちの良いものなのだろう。

## 優秀賞

### 修行僧夕餉は蟹や締めさの般若湯け

東京都足立区 佐藤 春夫

修行僧とて腹は空く。蟹の料理を堪能し、締めに般若湯をいただく。これぞ極楽、極楽。しっかり腹を満たし、馳走に満足し、しかるのちにほんの少々の般若湯に親しむ。そして人のあるべき道を説いてくだされや、人に満願を与えてくだされや。

## 秋立つや光る水面の海に抜け

滋賀県栗東市 太田 久佐子

暑かった夏ともいよいよお別れ。息を詰めてひたすら耐えていた身には、秋の訪れを知らせるような風の涼しさ、空の色は感激的な感覚になろう。常套句の「秋立つや」を口にのぼせると、その向こうに海が開け、その水面がさかんに煌めいている景色が立ち上がってくるようだ。

## 浴衣より金髪揺るる外湯かな

京都府京都市 田中 白秋

温泉街を散歩してみる。多くの人に混じって闊歩する金髪の浴衣姿が見える。湯上りの客であろうか。姿勢の良さからほんのりと湯の香も漂ってくるようで、そぞろ旅情が身についてくるようで…何とも気持ち豊かになるようだ。

## 菖蒲束両手に抱え湯舟かな

兵庫県宝塚市 福井 徹

端午の節句に菖蒲を浮かべて入浴する。腰痛や神経痛に効くと言い、古来からの民間療法の一つであるが、ここ城崎温泉でも菖蒲湯を提供している。菖蒲の強い芳香は実に爽やかで、湯舟を往来する入浴客の愉しむ姿が浮かんでくる。

## 糸柳風とたわむれ筆と化す

兵庫県豊岡市 安田 尤之

大谿川沿いに青々とした柳並木が見える。城崎温泉の風景として全国の方に知られている。とくに春から初夏にかけての青々とした柳並木はそぞろ旅情をそそる。風が吹いてくると多くの葉が一斉に靡く。見とれていると自分もそのように靡き、筆先のようなしなやかな動きになる。

入 選

定宿の爛酒うれし蟹絵卷

滋賀県草津市 鼎 智 仁

凍星<sup>いてぼし</sup>の水面に映る冬景色

愛知県西尾市 倉 内 雅 弘

御所露天湯けむり貫く白雨かな

神奈川県横浜市 岡 崎 貴 樹

城崎や蟹三昧の夜の風

大阪府羽曳野市 新 居 と も

下駄鳴らし巡る城崎や宿浴衣

北海道札幌市 藤 林 正 則

蜻蛉舞う太古の記憶玄武洞

兵庫県神戸市

前有香

城崎の地蔵にふれる花の雨

岡山県岡山市

小西邦子

雨ふりのあじさいどこか寂しげに

兵庫県伊丹市

勇海紗弥

湯けむりに灯る柳の影ぼうし

兵庫県明石市

岡野時継

日暮れ前夜中の城崎楽しみに

兵庫県小野市

谷口大空

鴻と鶴<sup>びらん</sup>糜爛<sup>み</sup>を盈たし胸躍らせ

東京都墨田区

穴澤和大

御所の湯や背にひとすじの花明り

福井県あわら市

浅野直美

降る雪を見上げてをりし雪達磨

東京都足立区

木幡忠文

湯上がりの傘に溜まりゆく気霜きしもかな

大阪府大阪市

野沢知花

まんだら湯つぼに手足を押し込んで

京都府京都市

井関一海

疎まれし蜂も尊き命かな

東京都新宿区

中野梓

傷癒やす但馬の宿の月淡し

東京都新宿区

福原仁子



雪しんしんいもりの静寂夜の底

東京都新宿区

福島歩

雪景色けむり重なり湯を思う

大阪府高槻市

石川和磨

金婚を祝ぐ城崎の松葉蟹

東京都江戸川区

羽住博之

真打は外湯めぐりの鬼遣らい

大阪府吹田市

富永武司

雪降る日足湯に白き足六本

兵庫県豊岡市

四角澄朗

文学館出でて紫陽花遣らず雨

神奈川県大和市

栗林浩

湯の街の闇ゆらぎぞめ初湯あぶ

兵庫県加古川市

小谷 さよ子

秋景色空に重なる下駄の音

徳島県徳島市

平 充 希

大谿の川面賑わす夏花火

兵庫県豊岡市

谷 口 俊 一

湯の里の散策からころ秋の雨

北海道白老郡

有 江 則 雄

芽柳や湯めぐりつなぐ宿の下駄

兵庫県豊岡市

竹 村 美千代

温泉で女子会してる雪見酒

兵庫県西宮市

上 木 京 子

湯上がりの柳を渡る秋の風

神奈川県川崎市

水上 恵子

淡雪に二の字くつきり太鼓橋

兵庫県豊岡市

森田 洋

城崎はよか風呂ごわしたまんだらの湯

鹿児島県鹿児島市

幾留 修

灯籠の淡き光に祖母の影

大阪府四條畷市

今井 祐希子

湯後の宴もう止まらない蟹ほぐし

大阪府大阪市

村上 哲也

線路へと吸い込まれてく冬の暮

東京都新宿区

土方 菜々子

音の無い縁側一人秋の暮

東京都新宿区

高橋 亜実

蜂の死をたぶん時雨は気づかない

東京都新宿区

佐藤 佳子

生と死の境目気付く冬の道

東京都新宿区

古屋 凜咲

生と死の色入り混じる湯けむりに

東京都新宿区

佐藤 杏樹

誰か死に誰か苦しむ秋の暮れ

東京都新宿区

志熊 こころ

冬日和日々の悩みを湯に溶かす

東京都新宿区

吉澤 実優

生きものは常に生と死紙一重

東京都新宿区

田中 絢

涼風や霊験感ず温泉寺

兵庫県加古川市

前川 桂恵三

芽柳のさやかに写し太鼓橋

兵庫県豊岡市

藤田 幸美

閉ざされて雪温かし山の宿

兵庫県明石市

田底 淳子

初雪を踏みしめ渡る太鼓橋

兵庫県豊岡市

山田 まゆみ

湯冷め後の肌を乾かす春風や

大阪府大阪市

木下 健太

芽柳の風のよろこび但馬牛

神奈川県大和市

栗林智子

逢魔が刻ゆれる柳に涼し夏

愛知県稲沢市

谷口晴代

秋の蝶定連らしく外湯かな

兵庫県姫路市

三木崇弘

梅雨晴れや次の温泉にまた同じ顔

大阪府大阪市

神足颯人

年一度贅を極めた津居山の味

奈良県生駒市

中西浩

城崎に来て嬉しい泣くほどに

兵庫県丹波篠山市

石井晃

懐かしや梅雨の晴れ間の湯の香り

山梨県甲府市

佐野一彦

城崎の町並みたのし雪休暇

兵庫県姫路市

松山照紀

湯の町や水面に揺れる朧月

京都府京都市

中村かよ子

湯上がりや風に吹かれし花火の夜

兵庫県姫路市

中島保

向かい合う柳の前の君と僕

三重県松阪市

稲葉拓海

夜に咲く桜と光と笑顔たち

広島県東広島市

菊井咲希

山があり自然に満ちた温泉だ

兵庫県西宮市

大石 彩

温泉と女将は同じ温かさ

兵庫県尼崎市

古川 智紀

温けむりの街にたたずむ雲海だ

大阪府大阪市

上田 真夕

秋朝や湯口打たせ湯独り占め

神奈川県川崎市

水上 浩

年明けに仕事も忘るる極楽へ

大阪府大阪市

山口 貴史

「父さんね。」洞窟ひびく湯あたり声

大阪府大阪市

松村 佳音



雪の朝下駄と小さなくつの跡

兵庫県加古郡

福井 勇

湯の街の桜の中をそぞろゆく

三重県津市

藤井 久美子

ダブルピースそれは何かな？蟹の真似

大阪府寝屋川市

坂元 星舞

下駄の音を響かす古希や秋日和

三重県亀山市

吉田 文子

湯けむりににおいを染める青もみじ

大阪府大阪市

趙 縁

城崎の外湯めぐりて初夏の旅

福岡県大川市

廣松 智子

一の湯に柳のさそう夏の風

岡山県岡山市

服部 邦子

湯けむりの奏でる音は下駄楽団

神奈川県高座郡

尾崎 匠

城崎は雨の風情も晴れも良し

大阪府高槻市

奥村 桂子

城崎路やなぎに頬を撫でられたい

滋賀県大津市

高木 貞子

顔見えぬ雨の中きく下駄の音

大阪府寝屋川市

加藤 萌々子

湯けむりに響く鼻歌祖母の声

大阪府東大阪市

藤本 尚子

秋月夜浴衣姿のすまし顔

兵庫県朝来市

上田幸広

喜寿の旅昔なつかし外湯めぐり

兵庫県神戸市

鵜飼永子

秋紅葉白くかかるは湯のけむり

兵庫県尼崎市

本田涼太

城崎の夜風親しむ下駄の音

広島県呉市

住田義斗

城崎の外湯めぐりて夢語り

兵庫県豊岡市

太田博章

梅雨の蜘蛛糸煌めかし御所のお湯

大阪府大阪市

西谷有輝也

風光る柳葉ゆれて城崎の湯

福井県福井市 朝倉裕美子

水面ゆれ緑ざわめき桜散る散る

大阪府吹田市 武田基希

湯の旅や顔にまとえる朧月

兵庫県豊岡市 高橋詩絵里

雪舞う夜テスト終わりに城崎へ

滋賀県栗東市 三浦和音

紅の蟹雪降る御所の長湯かな

兵庫県揖保郡 田中柚葉

城崎の白雪とかす湯のけむり

香川県坂出市 福家健太

寒空の湯冷めを知らぬ下駄の音

石川県小松市

佐茂亮太

せせらぎに柳葉枝垂れて夫婦旅

島根県仁多郡

松崎智昭

なつかしき友との旅路夢語る

兵庫県西宮市

塩田柚佳

入浴券旅館に忘れ雪合戦

大阪府大阪市

佐飛由樹葉

初めてのげたは大変足真っ赤

大阪府大阪市

八田結斗